



決め手は、青森県産。



りんご生産情報第3号  
(5月11日～5月23日)

令和元年5月10日発表  
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

結実確保に全力を！  
「ふじの落花20日後頃」までは、黒星病の重点防除時期!!  
基準量を丁寧に!!!  
「ふじの落花直後」の薬剤散布は5月13～14日頃!!!!

## I 概要

ふじの開花日は、黒石（りんご研究所）で平年より3日、五戸（りんご研究所県南果樹部）で平年より5日早く、ともに5月5日であった。

本年は、樹により開花量にバラツキが見られるほか、開花期間中の前半は強風によりマメコバチの活動が鈍かったため、人手授粉など結実確保に努める。

第3回目「ふじの落花直後」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で5月13～14日頃に実施する。

黒星病の子のう胞子は、4月26日に最初の飛散のピークを迎えた。このあと、「ふじの落花20日後頃」までは、降雨とともに子のう胞子が多く飛散するので、薬剤の散布間隔は10日間隔を守り、基準量を丁寧に散布する。なお、散布予定日に降雨が見込まれる場合は、事前散布に徹する。

今後、黒星病の葉上病斑が確認される時期になることから、園地を見回り、被害葉は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

## II りんご生産情報

### 1 生育、作業の進み、病虫害の動き

#### (1) 生育ステージ（5月9日現在）

ふじの開花日は、黒石（りんご研究所）で平年より3日、五戸（りんご研究所 県南果樹部）で平年より5日早く、ともに5月5日であった。王林の満開日は、黒石で平年より4日早く、五戸で平年より5日早く、ともに5月8日であった。

#### ○開花日 (月. 日)

地域	年	つがる	ジョナゴールド	王林	ふじ
黒石 (りんご研)	本年	5. 5	5. 5	5. 4	5. 5
	平年	5. 8	5. 7	5. 6	5. 8
	前年	5. 2	5. 1	5. 1	5. 2
五戸 (県南果樹部)	本年	5. 5	5. 5	5. 4	5. 5
	平年	5.10	5.10	5. 8	5.10
	前年	5. 3	5. 1	4.30	5. 1
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本年	5. 5	5. 4	5. 3	5. 5
	平年	5. 7	5. 5	5. 5	5. 7
	前年	5. 1	4.30	4.29	5. 2
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本年	5. 5	5. 5	5. 3	5. 6
	平年	5. 8	5. 6	5. 6	5. 9
	前年	5. 3	5. 1	5. 1	5. 4
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本年	5. 5	5. 4	-	5. 4
	平年	5. 6	5. 5	-	5. 6
	前年	4.30	4.29	-	4.29

注1) 開花日：1～2花開花したとき

注2) 各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

#### ○満開日 (月. 日)

地域	年	つがる	ジョナゴールド	王林	ふじ
黒石 (りんご研)	本年	-	5. 9	5. 8	-
	平年	5.13	5.13	5.12	5.13
	前年	5. 8	5. 6	5. 6	5. 7
五戸 (県南果樹部)	本年	-	-	5. 8	-
	平年	5.15	5.14	5.13	5.15
	前年	5. 7	5. 6	5. 5	5. 6

注) 満開日：頂芽花の70～80%開花したとき

(2) 作業の進み (5月8日現在)

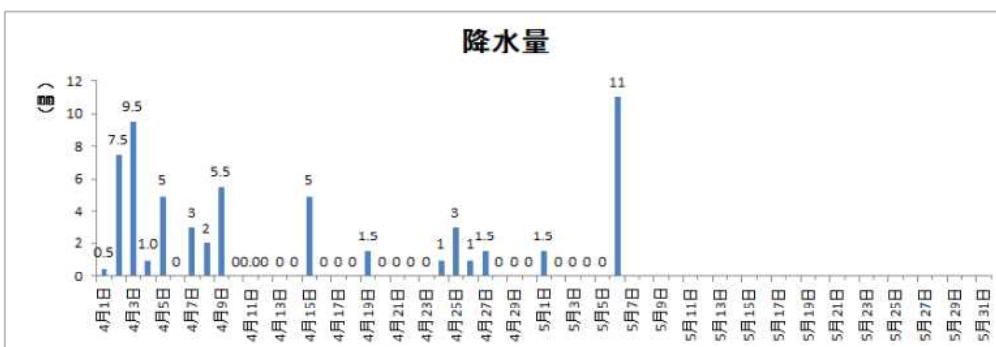
「ふじの開花直前」の薬剤散布は、5月3～5日頃が盛期であった。  
 人手による授粉のほか、王林等の摘花作業が行われている。

(3) 病害虫の動き (5月8日現在 りんご研究所)

腐らん病	病斑の伸展、胞子の飛散とも継続中
モニリア病	葉腐れ初発(本年：黒石5月4日、平年：黒石5月2日) まもなく実腐れがみられる (実腐れ初発 平年：黒石5月23日)
黒星病	まもなく葉上病斑がみられる(平年：黒石5月14日)
うどんこ病	分生子の飛散継続中
キンモンホソガ	幼虫が葉を加害中
ギンモンハモグリガ	幼虫が葉を加害中
ミダレカクモンハマキ	越冬卵からのふ化ほぼ終了(ふ化終了 平年：黒石5月13日) 幼虫が葉・花を加害中
リンゴハダニ	越冬卵からのふ化継続中 幼虫～若虫が葉を加害中
クワコナカイガラムシ	5月下旬から越冬世代幼虫の移動が始まる見込み (移動初発 平年：黒石5月21日)
ナシヒメシクイ	越冬世代成虫の羽化継続中 (越冬世代成虫初発 本年：黒石4月23日、平年：黒石5月1日)

(4) 黒星病子のう胞子の飛散状況 (アップルネット (<https://www.applenet.jp/>))に掲載中

調査場所:りんご研究所C2号圃(殺菌剤無散布)



## 2 作業の重点

### (1) 黒星病対策

黒星病の子のう胞子は、4月26日に最初の飛散のピークを迎えた。このあと、「ふじの落花20日後頃」までは、降雨とともに子のう胞子が多く飛散するので、薬剤の散布間隔は10日間隔を守って、基準量を丁寧に散布する。なお、散布予定日に降雨が見込まれる場合は、事前散布に徹する。

被害葉は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

### (2) うどんこ病対策

発芽から開花までの間に、感染した芽から発芽した花・葉そうが、白い粉に覆われ、生長が停止して奇形化し、伝染源（芽しぶ）となる。

近年、発生が目立ってきているので、被害花そう・葉そうは伝染源の密度を下げるため、見つけ次第、枝ごと摘み取る。

### (3) 第3回目の薬剤散布「ふじの落花直後」

引き続き黒星病の重点防除時期なので、「ふじの落花直後」の散布は、「ふじの開花直前」散布の10日後に実施する。

開花期間が長引いた時は、満開が過ぎたら、花が残っていても散布する。

#### 第3回目：「ふじの落花直後」

地域	時期	基準薬剤	散布量/10a
黒石 弘前 三戸	5月13～14日頃	ユニックス顆粒水和剤47	2,000倍
		+	
		チウラム剤	500倍
		又はジマンダイセン水和剤	600倍

ミダレカクモンハマキの防除は、「開花直前」に選択した薬剤をこの時期にも使用する。

開花期にリンゴハダニの発生が多い園地では、バロックフロアブル2,000倍も使用する。

(4) 第4回目の薬剤散布「ふじの落花10日後頃」

黒星病のみならず、黒点病などの防除対策上でも重要な時期なので、散布量や10日間の散布間隔を守る。

第4回目：「ふじの落花10日後頃」

地域	時期	基準薬剤	散布量/10a
黒石 弘前 三戸	5月23～24日頃	炭酸カルシウム水和剤 100倍	350ℓ
		チウラム剤 500倍	
		又はジマンダイセン水和剤 600倍	

うどんこ病の発生が多い園地では、トップジンM水和剤1,500倍又はベンレート水和剤3,000倍も使用する。

ナシヒメシンクイの発生が多い園地では、有効な薬剤を使用する。

(5) 結実確保

本年は樹により開花量にバラツキが見られるほか、開花期間中の前半は強風によりマメコバチの活動が鈍かったので、人手授粉など結実確保に努める。

(6) 摘果

摘果は、果実肥大増進や品質向上、隔年結果防止、樹勢維持のために重要であり、いずれの品種も早期適正着果が原則であるので、結実状況をきちんと確認してから、すみやかに摘果に取りかかる。

果実形質の良し悪しが判然としない落花15日後頃までは、一つ成り摘果とし、判別が可能になった時点から仕上げ摘果を行う。ただし、つがるなどのように早期落果の多い品種では、落花10日後頃までに一つ成り摘果を終える。

仕上げ摘果は標準的な着果程度を目安に、陸奥、世界一では落花15日後頃までに、その他の品種では落花25日頃までに終えるようにする。

品種別の標準的な着果程度

品 種	摘果の強さ (残す果実)
紅玉	3頂芽に1果
つがる・ジョナゴールド	3.5頂芽に1果
ふじ・王林・早生ふじ・トキ・シナノゴールド・きおう・金星・シナノスイート・未希ライフ・ぐんま名月・さんさ・春明21・星の金貨・千雪・夏緑・恋空・祝・花祝	4頂芽に1果
北斗	4.5頂芽に1果
陸奥・世界一	5頂芽に1果

#### (7) 葉剤摘果

摘果剤は、展着剤を加用したマイクロデナボン水和剤85の1,200倍を使用し、果実に薬液が十分かかるように、10a当たり350ℓ以上を散布する。

散布時期は、ふじ、陸奥、王林、北斗、さんさ、早生ふじ、トキ、春明21、シナノスイートでは「満開後2週間頃」（ふじでは中心果の横径10mmくらい）、紅玉、星の金貨では「満開後3週間頃」（紅玉では中心果の横径16mmくらい）の1回である。

つがる、世界一など早期落果の多い品種やジョナゴールド、ぐんま名月などに本剤がかかると落ちすぎることがあるので、かからないようにする。

本剤散布による落果は、散布10日後頃から始まり、以後10～14日間継続する。

ただし、年によっては、効果の発現が遅れたり、不十分な場合もあるので仕上げ摘果は遅れないようにする。

#### (8) 腐らん病対策

枝腐らんは、見つけ次第、切り取って処分する。

胴腐らんは、再発病斑を含め見つけ次第、次のいずれかの処置を行う。

ア 泥巻きを行う場合は、周辺健全部を含めて病患部に厚く泥を張り付ける。

イ バッチレート又はフランカットスプレーを使う場合は、周辺健全部を含めて病患部を紡錘形に削ってから塗る。

ウ トップジンMオイルペーストを使う場合は、病患部を削り取り、さらに浸透性を高めるために周辺の健全表皮（上下約5cm、左右2～3cm）を薄く削ってから塗る。

エ 胴腐らんの発病が著しい樹は、病原菌の伝染源になるので積極的に伐採する。

#### (9) モニリア病対策

葉腐れ、花腐れ、実腐れ、株腐れは、園内を見回り、見つけ次第摘み取って処分する。

#### (10) 輪紋病対策

枝幹のいぼ病斑は、削り取って、トップジンMペーストを塗る。

#### (11) 交信攪乱剤の設置

交信攪乱剤コンフューザーRは、5月下旬～6月上旬に園地内に取り付ける。広い面積で処理するほど効果が高いため、できるだけ地域ぐるみで取り組む。

## (12) 苦土（マグネシウム）欠乏対策

苦土欠乏は、土壌の酸性化に伴うマグネシウムの溶脱などによるものであり、欠乏症がみられたら、次表に従い葉面散布用の精製硫酸マグネシウム（グリーントップまたはグリーントップ70）を1～2回散布する。2回散布する場合は、散布間隔を7～10日あける。

なお、苦土欠乏は、土壌の酸性化が原因なので、あらかじめ土壌診断を行い、自園の状況を把握する。

（分析の依頼先：JA全農あおもり土壌分析センターまたは最寄りのJA等）

### 苦土資材の使用量

資材名	マグネシウム含有量 (%)	水1000当たり使用量 (倍数)	
		5月末まで	6月以降
グリーントップ	16%	1,500 g (67倍)	2,000 g (50倍)
グリーントップ70	23%	1,000 g (100倍)	1,400 g (71倍)

## (13) 乾燥対策

無降雨状態が続く場合は、苗木や若木を主体に1 m<sup>2</sup>当たり200程度をかん水する。また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

## (14) 霜害防止対策

気象情報に十分に注意し、降霜の恐れがある場合は、防霜ファンや燃焼法による対策を実施する。

## 3 一般作業

(1) 摘花 (2) 草刈り (3) ひこばえ、徒長枝の切り取り (4) スコアリング

## 4 今後の作業予定 (5月24日～6月6日)

(1) 薬剤散布（「ふじの落花20日後頃」） (2) 摘果 (3) モニリア病対策  
(4) 腐らん病対策 (5) 交信攪乱剤の設置 (6) ビターピット対策  
(7) クワコナカイガラムシ対策 (8) 輪紋病対策

黒星病徹底防除推進期間中(4月～6月)、放任園等発生防止強化月間中(5月)りんご黒星病の撲滅に向け、適期適量散布による薬剤防除に加え、菌密度を下げるための落葉処理等の耕種的防除にも取り組みましょう。りんご黒星病の予想感染危険日(試運行中)をアップルネット(<https://www.applenet.jp/>)に掲載しています。

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用する。

○農林水産省「農薬情報」

[http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n\\_info/](http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)

○(独)農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報提供システム」

[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)

○青森県農業情報サービスネットワーク「アップルネット」農薬情報

<http://www.applenet.jp/>

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように、農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 ポジティブリスト制への対応 》

農薬の飛散により、周辺住民及び作物に被害を及ぼすことのないように、散布情報の提供・交換等地域が連携し、農薬飛散低減対策に留意して散布を行う。

～農業保険（農業共済及び収入保険）への加入について～

自分にあったセーフティネットに加入し、農業経営に万全の備えを！

○農業共済

「農業共済」は、自然災害等により農作物・家畜・園芸施設に損害が生じた場合に補償される制度です。

○農業経営収入保険

令和元年から始まった「農業経営収入保険」は、自然災害に加え、農産物の価格低下などにより販売収入が減少した場合に補償される制度です。加入には、青色申告の実績が条件となっています。

※詳しくは、お近くの農業共済組合にお問い合わせください。

---

青森県農薬危害防止運動期間中（5月1日～8月31日）です！

---

農作業事故が多発しています！農作業安全を心がけましょう！

---

融雪水による園地浸水や土砂災害に注意しましょう！

---

山火事などの火災の発生防止に努めましょう！

---



次回の「りんご生産情報」第4号は5月23日（木）発表の予定です。

連絡先	： りんご果樹課生産振興グループ
電話番号	： 017-722-1111代表 内線 5092, 5097 017-734-9492直通